

予習の習慣を大学入学までに身に着けよう

—大学での反転授業に備えて—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：反転授業とは何ですか。

A：(1)知識を学ぶのは予習で済ませて、学校での授業はその応用にあてるのが「反転授業」と呼ばれる学習の仕方です。教室で学び、家で復習するのとは逆になるため「反転授業」と呼ばれています。

(2)この反転授業はアメリカで始まり、日本でも急速に広まりつつあります。特に、インターネットを活用し、予習をしてきた課題を教室で更に深める反転授業の取り組みは、予習の教材開発も含め、東京工科大学、山梨大学、島根大学、東京大学、芝浦工業大学などでスタート。

(3)昨年 2015 年 4 月には、主要大学や企業などが「日本オープンオンライン推進協議会」(JMOOC)を中心に、日本版 MOOC をスタートしたことで大きな広がりが出てきました。

Q：これからの大学生はどのように勉強すると考えますか。

A：(1)全教科すべての予習用アプリケーションソフトがそろそろまで時間はかかるでしょうが、大学での多くの教科の予習は、インターネットで行うようになると思われます。

(2)事前に出された課題について、予習教材をインターネットで学び、授業の最初にはインターネットで予習してきたか否かなどを、タブレットを用いて「確認テスト」。

(3)学生は予習を通して考えてきた課題解決の方法を授業中に発表し、先生をコーディネータ役にして、皆で意見交換、理解を深めるようになるのではと思われます。

Q：つまり、大学では予習が前提となる反転授業が主流になるのですか。

A：(1)その通りです。この予習を前提とする反転授業は、大学だけではなく、高校や中学校、小学校にも広まっています。

(2)そこで大切なことは、「予習の習慣」を大学に入学するまでに身に着けておくことです。小学生、中学生、高校生のうちに予習の習慣を身に着けて、大学に進学することが求められます。

Q：インターネットの予習用教材を用いなくても、予習はできますか。

A：(1)もちろん可能です。現実には、熱心な人は、100年、200年前から、学校の授業の前に自分から進んで授業の予習をしてきました。

(2)今までも、学習塾や予備校、私立学校、公立学校などすべての教育機関では、先生方は予習の意味や大切さを訴えてきたのではありませんか。

(3) 予習の必要性は、反転授業で初めて訴えられたものではありません。今までも、熱心な先生はすべて予習の必要性を訴え、熱心な人は、皆、自分から進んで主体性をもって予習をしてきました。

Q：反転授業はさておき、予習は何のためにするのだと林さんは考えますか。

A：(1) 自分から進んで勉強して、わからないところを明確にするためだと考えます。わからないことをはっきりさせて授業に臨む。そのために行うのが予習と考えます。

(2) そのために、教科書や教材などを自分から進んで勉強して、わからない語句があったら辞書や用語集、参考書などを用いて調べる。辞書などで調べた内容をノートに書き写し、それがどのようなことなのかよく理解することが求められます。

(3) 同時に、教科書や問題集の計算や問題は、予習の段階ですべてノートに自分の力で解いてみる。わからないものには印をつけておく。

(4) 大切なことは何かを考え、ノートに書き写して、どのようなことなのかよく考える。

(5) 予習をしていてよく理解できた内容は、音読練習や書き取り練習、計算・問題練習を繰り返して、予習の段階でも正確に身に着ける。

(6) 今までのような従来型の授業でも、ここまですべて予習の段階で行い、何がよくわからないのかをはっきりさせて授業に臨むことが大事です。

(7) 反転授業の場合には、これらに加えて、先生から出された課題を自分の力で考え、教室でプレゼンができるように、文章などにまとめておくことが大切です。

Q：反転授業の場合に気を付けなければならないことは何ですか。

A：(1) インターネットなどを用いた予習も大切ですが、授業後の「ノート整理」を欠かさないこと。

(2) どのような前提で、どのような議論がなされたのかを、授業中のメモなどを見ながら自分の力でまとめ、ノートに記録。絶えずそのノートを読み返し、考えを深めること。

(3) 教科書に出ているような基本的な知識は、たとえ反転授業であろうと決して軽視せず、正確に理解し、確実に定着させること。

(4) 意味のわからない語句は、気持ちが悪いと思い、すべて辞書で意味を調べ、身に着け、語彙を少しずつでも増やすこと。

(5) 音読練習や書き取り練習、計算・問題練習など定着のために役立つ練習は、抜かりなく行うこと。

(6) 反転授業の盛んなフィンランドでも、教科書や教材、辞書などの活用や、テキストやノート、問題集などを用いた「練習、練習、また、練習」による定着は、欠かさず行っているようです。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1) 高校卒業後、80%近い生徒が、大学などの高等教育機関に進学します。

(2) 大学など高等教育機関を卒業後も、新しい知識や授業や情報、技術を学ぶために、何回も大学等に入り直して学び直すのが、知識基盤社会、生涯学習社会です。

(3) 高校や大学を卒業後、企業などで仕事をする際にも自分から進んで学ばなければならないこ

とは山ほどあります。

(4)このような現実を直視し、学習塾や予備校、私立学校など自分たちの教育機関に在籍している間は、せめて短期間であっても、予習や復習など勉強の仕方をしっかりと指導し、高校卒業後の生涯にわたる学習に耐えられる「主体的に学ぶ力」を身に着けさせて頂きたいいたします。

(5)皆様のお力で「主体的に学ぶ力」が身に着けば身に着くほど、教え子の皆様は「多様な選択肢のある人生」を歩むことができます。また、主体的に学ぶ力を身に着けた人々が多ければ多いほど、地域の教育力が向上し、その社会は正常に機能する社会、持続可能な社会となります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、御覧になれば参考になる作品を御紹介いたします。

(1)1つ目は、森絵都著「みかづき」集英社 2016年9月10日刊です。学習塾業界のこれまでの半世紀の歴史を踏まえ、官民連携教育にまで言及した、人口の急増する超激戦地、千葉県の学習塾を舞台にした長編小説です。学習塾の先生方の必読書、研修テキストとしても最適な作品と確信します。

(2)2つ目は、都留分科大学学長、福田誠治著「フィンランドはもう『学力』の先を行っている一人生につながるコンピテンス・ベースの教育」亜紀書房 2012年10月4日刊です。アメリカ発の反転学習の先にあるのが、福田先生がこの10年御紹介続けているフィンランドの教育かもしれません。福田先生の「格差をなくせば子どもの学力は伸びる一驚きのフィンランド教育」亜紀書房 2007年7月22日刊も併読し、教育の未来をお考えください。

(3)3つ目は、映画「マイケル・ムーアの世界戦略のススメ」DVD 2016年10月10日発売です。フィンランドの教育も手際よく紹介されている驚きの映像が満載です。是非、御覧ください。

— 2016年10月1日(土)林明夫記 —

— ユネスコ世界哲学の日(毎年11月第3木曜日)イベントの御案内 —

「哲学なくしてユネスコなし、今 哲学しよう」

日時：2016年11月17日(第3木曜日)10:00～12:45、9:30開場です。

場所：国連大学 5階 エリザベス・ローズ国際会議場(東京青山、青山学院大学前)

入場：無料

主催：開倫ユネスコ協会(会長 林明夫)

共催：スプリングユネスコクラブ

伊豆ユネスコクラブ

お問い合わせ先：TEL0284-72-5945 開倫ユネスコ協会(高尾まで)

*毎年11月第3木曜日は、「ユネスコ世界哲学の日」です。「今、哲学しよう！」